

Risk of Noninfectious Uveitis after Coronavirus Disease 2019 Vaccination in a United States Claims Database.

Kumar A, Miller DC, Sun Y, Arnold BF, Acharya NR.
Ophthalmology. 2023 Jul 20:S0161-6420(23)00502-X.

COVID-19 ワクチン接種後に非感染性ぶどう膜炎 (NIU) の発生頻度が増加するかどうかを検討した論文について紹介する。研究の結論として、COVID-19 ワクチン接種が非感染性ぶどう膜炎の発症を増加させることはないと言われた。ただし、有意な差は認められなかったが、self-controlled case series (SCCS) 解析では、5 歳から 44 歳の若年サブグループにおいて発症が多い傾向が見られた。著者たちが指摘するのは、NIU は通常、年齢と共に増加するものだが、若年層でワクチン接種後の NIU の増加が見られたため、若者におけるリスクが存在する可能性があるということ。これは、ワクチン接種後に他のまれな副作用、例えば心筋炎のリスクが若年層で高まるという所見と一致する。有意な差はないものの、年齢別サブグループ解析をさらに詳細に行うためには、より大きなサンプルサイズを用いた研究が、ワクチン接種後の NIU リスクとの関連を明らかにするのに役立つ。

同様に、東京大学からも日本人を対象にした研究報告がある**。日本では、2 回目のワクチン接種後にぶどう膜炎の発症が増加するというコホート研究の結果が出ていたが、SCCS 解析ではこの結果は陰性であった。SCCS が時間によらず不変な交絡因子を排除できることを考慮すると、これらの結果は、COVID-19 ワクチン接種が眼の有害事象リスクを因果的に増加させる可能性が低いことを示唆している。

* コホート研究と SCCS の違いについて補足説明: コホート研究は異なる個人のグループをワクチン接種状態に基づいて比較するのに対し、SCCS は同じ個人内でワクチン接種期間と非接種期間を比較して結果のリスクを評価する。これらの方法にはそれぞれ特長と制限があり、どちらを選択するかは研究の質問と利用可能なデータによって決定される。

** Hashimoto Y et al. Ocular adverse events after coronavirus disease 2019 mRNA vaccination: matched cohort and self-controlled case series studies using a large database. Ophthalmology. 2023; 130: 256-264

(担当者: 大阪大学 丸山和一)